

母親を取り巻く労働環境とワーク・ライフ・バランス

内藤 朋枝

(成蹊大学非常勤講師)

本報告は、子育て期の母親を取り巻く労働環境が、母親の労働時間、就業形態、およびワーク・ライフ・コンフリクト（WLC）にどのような影響をあたえているのかを検討したものである。

分析にあたり、母親の労働時間、就業形態、およびWLC指標については、労働政策研究・研修機構が2012年におこなった「子どものいる世帯の生活状況および保護者の就業に関する調査」の個票データを用いた。母親が働いている職場の環境については、(独)統計センターより提供を受けた、2008年から2012年の「労働力調査 基礎調査」の匿名データを用い、母親が働いている業種・職種グループ（例：製造業のマネージャー）で働く、18歳から55歳の男性労働者の週平均労働時間、および週50時間以上労働者の割合を指標として用いた（Cortes and Pan 2016）。

結果、週50時間以上働いている男性の割合が高いほど、母親の労働時間が有意に長いという結果が得られた。また、男性の週平均労働時間が短い（長い）、および週50時間以上働いている男性の割合が低い

（高い）ほど、正規就労を行う確率が有意に高かった（低かった）。WLC指標で得られた結果を合わせると、母親は、労働時間を（短く）調整するためには、残業している男性が少ない職場を選ぶと同時に、悪い職場環境で働く場合、労働時間そのものではなく、非正規就業を選ぶことで労働時間を調整し、非正規就業を選ぶことでワーク・ライフ・バランスを保っているという状況が観察された。

参考文献

Cortes, P. and Pan, Jessica (2016) "Prevalence of Long Working Hours and Skilled Women's Occupation Choices," IZA DP No.10225.

ないとう・ともえ 政策研究大学院大学博士課程修了、成蹊大学経済学部非常勤講師、博士（公共経済学）。最近の主な論文にNaito, Tomoe and Wie, Dainn (2018) "First-Grade Shock: Women's Work-Life Conflict in Japan", GRIPS Discussion Papers, pp. 18-20. 公共政策, 労働経済学専攻。